

RV215Wのトンネリング設定

目的

トンネリングは、あるタイプのネットワークから異なるタイプのネットワーク上でパケットを転送するために使用される機能です。最も一般的なトンネリングのタイプは6to4トンネリングです。このタイプのトンネリングでは、カプセル化を通じてIPv6パケットをIPv4ネットワーク経由で転送できます。6to4トンネリングは、IPv4からIPv6への移行中に両方のIPタイプをサポートするために作成されました。トンネリングの一般的なタイプは4to6トンネリングです。このタイプのトンネリングでは、IPv4パケットをIPv6ネットワーク経由で転送できます。

この記事では、RV215Wでのトンネリングの設定方法について説明します。

該当するデバイス

- ・ RV215W

[Software Version]

- ・1.1.0.5

トンネリング

6to4トンネリング

6to4トンネリングでは、IPv4ネットワーク経由でIPv6パケットを送信できます。これは、IPv6パケットをIPv4パケットにカプセル化することによって実現されます。リモートIPv6ネットワークでパケットが受信されると、そのパケットはIPv6パケットにカプセル化解除されます。このタイプのトンネリングは、ISPが6RDトンネリングを提供しない場合に使用されます。

ステップ1: Web設定ユーティリティにログインし、[Networking] > [IPv6] > [Tunneling]を選択します。[トンネリング]ページが開きます。

Tunneling

6 to 4 Tunneling

6 to 4 Tunneling: Enable
 6to4 6RD

Automatic Tunneling: Enable

Remote End Point IPv4 Address: 176 . 54 . 100 . 1

6RD Tunneling: Auto Manual

IPv6 Prefix:

IPv6 Prefix Length: (Range:1-64)

Border Relay:

IPv4 Mask Length: (Range: 0-32)

4 to 6 Tunneling

4 to 6 Tunneling: Enable

Local WAN IPv6 Address:

Remote IPv6 Address:

Save

Cancel

ステップ2:[6 to 4 Tunneling] フィールドの[Enable]をオンにして、6to4トンネリングを有効にします。

注：6to4トンネリングを使用するには、[IP Mode]ページでLANをIPv6およびWAN IPv4に設定する必要があります。詳細については、「RV215WのIPモード設定」を参照してください。

ステップ3：トンネリングタイプを6to4に設定するには、[6to4]オプションボタンをクリックします。

ステップ4:[Automatic Tunneling]フィールドの[Enable] をオンにして、6to4トンネリングを自動的に設定します。自動6to4トンネリングは、IPv4ネットワークを非ブロードキャストマルチアクセス(NBMA)ネットワークとして扱います。NBMAネットワークでは、複数のホストが接続されますが、データは仮想回線を介してホスト間で直接送信されます。IPv6アドレスに埋め込まれたIPv4アドレスは、トンネルのもう一方の端を決定するために使用されます。

ステップ5：自動トンネリングが有効になっていない場合は、手動トンネルを作成するネットワークのエンドポイントIPv4アドレスを入力します。手動トンネルは、IPv4ネットワーク上の2つのIPv6ドメイン間の永続的なリンクです。

ステップ6:[Save]をクリックします。

6RDトンネリング

6 Rapid Deployment(6RD)は、6to4トンネリングのより安全なバージョンです。6RDでは、各ISPは、標準の2002::/16 6to4プレフィックスではなく、独自のIPv6プレフィックスを提供します。これにより、ISPはトンネルのQoSを制御し、リレーサーバを使用するユーザを制御できます。

ステップ1:Web設定ユーティリティにログインし、[Networking] > [IPv6] > [Tunneling]を選択します。[トンネリング]ページが開きます。

Tunneling

6 to 4 Tunneling

6 to 4 Tunneling: Enable

6to4 6RD

Automatic Tunneling: Enable

Remote End Point IPv4 Address: . . .

6RD Tunneling: Auto Manual

IPv6 Prefix:

IPv6 Prefix Length: (Range:1-64)

Border Relay:

IPv4 Mask Length: (Range: 0-32)

4 to 6 Tunneling

4 to 6 Tunneling: Enable

Local WAN IPv6 Address:

Remote IPv6 Address:

ステップ2:[6 to 4 Tunneling] フィールドの[Enable]をオンにして、6to4トンネリングを有効にします。

注：6to4トンネリングを使用するには、[IP Mode]ページでLANをIPv6およびWAN IPv4に設定する必要があります。詳細については、「RV215WのIPモード設定」を参照してください。

ステップ3：トンネリングタイプを6RDとして設定するには、[6RD]オプションボタンをクリックします。

ステップ4：目的のトンネリング接続モードに対応するオプションボタンをクリックします

。

- ・ Auto:6RDトンネリングは自動的に設定されます。自動6to4トンネリングは、IPv4ネットワークを非ブロードキャストマルチアクセス(NBMA)ネットワークとして扱います。NBMAネットワークでは、複数のホストが接続されますが、データは仮想回線を介してホスト間で直接送信されます。IPv6アドレスに埋め込まれたIPv4アドレスは、トンネルのもう一方の端を決定するために使用されます。
- ・ Manual — 6RDトンネリングは手動で設定する必要があります。手動トンネルは、IPv4ネットワーク上の2つのIPv6ドメイン間の永続的なリンクです。

ステップ5：接続モードが手動の場合は、次のフィールドを設定します。

- ・ IPv6 Prefix — ISPがトンネルに使用するIPv6プレフィクスを入力します。
- ・ IPv6 Prefix Length — IPv6アドレスのプレフィクス長を入力します。
- ・ Border Relay：境界ルータのIPv6アドレスを入力します。
- ・ IPv4マスク長：リモートエンドポイントのIPv4マスク長を入力します。

ステップ6:[Save]をクリックします。

4 ~ 6トンネリング

4to6トンネリングでは、IPv6ネットワーク経由でIPv4パケットを送信できます。この機能は、ローカルIPv4ネットワークがIPv6インターネットネットワークを介してリモートIPv4ネットワークにパケットを送信するときに使用されます。

ステップ1:Web設定ユーティリティにログインし、[Networking] > [IPv6] > [Tunneling]を選択します。[トンネリング]ページが開きます。

Tunneling

6 to 4 Tunneling

6 to 4 Tunneling: Enable

6to4 6RD

Automatic Tunneling: Enable

Remote End Point IPv4 Address: . . .

6RD Tunneling: Auto Manual

IPv6 Prefix:

IPv6 Prefix Length: (Range:1-64)

Border Relay:

IPv4 Mask Length: (Range: 0-32)

4 to 6 Tunneling

4 to 6 Tunneling: Enable

Local WAN IPv6 Address:

Remote IPv6 Address:

Save

Cancel

ステップ2:[4 to 6 Tunneling] フィールドの[Enable]をオンにして、4 ~ 6トンネリングを有効にします。

注：4to6トンネリングを使用するには、[IP Mode]ページでLANをIPv6に、WANをIPv4に設定する必要があります。

ステップ3:[Local WAN IPv6 Address]フィールドにRV215WのIPv6アドレスを入力します。

ステップ4:[Remote IPv6 Address]フィールドに、トンネルを作成するリモートエンドポイントのIPv6アドレスを入力します。

ステップ5:[Save]をクリックします。